



WORLDWIDE UCHINANCHU BUSINESS NETWORK

WUB ネットワーク資料内容

1. WUB ネットワークについて
2. 団体概要
3. 組織図
4. 歴代会長任期



WORLDWIDE UCHINANCHU BUSINESS NETWORK

WUB ネットワークについて

WUB（ワブ）は、Worldwide Uchinanchu Business Network（世界ウチナンチュ・ビジネス・ネットワーク）の略で、世界各地で活躍する県系人および沖縄をキーワードにWUB活動に賛同する会員で構成された組織。ウチナンチュが主体となる国際的ビジネス・ネットワークの構築と会員相互のビジネス活動の促進、会員交流を目的として設立された団体。16の国と地域に23支部を有し、会員数は約500名に及ぶ。

1995年に開催された「第2回世界のウチナンチュ大会」で構想が打ち出され、当時既に活動を始めていた、Hawaii Uchinanchu Business Group (HUB) を基に1997年に設立された。1997年にハワイで開催された設立大会から始まり、2008年のサンパウロ大会まで毎年、世界大会を開催し各支部会員の絆を深めるとともに、それぞれの課題や情報を共有する機会となっている。2009年からはWUBネットワーク役員（各支部会長）が集う理事会と全会員を対象にした世界大会を隔年で開催することになり、2016年は「第6回世界のウチナンチュ大会」にあわせて母県沖縄で世界大会を開催した。

近年、地域を超えた会員間のビジネス交流も活発であり、また、次世代のウチナンチュネットワークを担う若い世代の育成にも積極的に取り組んでいる。例として、WUB奨学基金（ハワイ大学と共同）を設立し、県系人子弟のハワイ大学東西センターへの留学支援、沖縄県とハワイ・マウイ島の高校生の交流事業などを手がけている。また、2014年の第18回WUB世界大会（ペルーリマ市）では、「沖縄“平和経済”宣言」を採択し、宣言した。

2017年の第21回世界大会では、WUB創立20周年を記念し、WUB誕生の地ハワイで記念大会ならびに祝賀会を開催した。



WORLDWIDE UCHINANCHU BUSINESS NETWORK

組織形態：

- 1 WUBは、ハワイ州ホノルル市にあるWUBネットワーク（NPO法人）を本部とし、16の国と地域に24支部。
- 2 WUBネットワーク役員
創設者 : ロバート・仲宗根（ハワイ・WUBネットワーク創設者・初代会長）
名誉会長 : 玉城デニー 沖縄県知事
会長 : ケンジ大城
副会長 : ジョン田里（北米担当）
 : ルイ知花（南米担当）
 : トニー佐久田（アジア担当）
顧問 : 呉屋 守将（WUBネットワーク第2代会長）
 : 与那嶺真次（WUBネットワーク第3代会長）
 : 牧志 泰三（WUBネットワーク第4代会長）
 : 長嶺 爲泰（WUBネットワーク第5代会長）
 : 東 良和（WUBネットワーク第6代会長）
 : スティーブ 喜舎場 ソンブレロ（WUBネットワーク第7代会長）

ミッション：

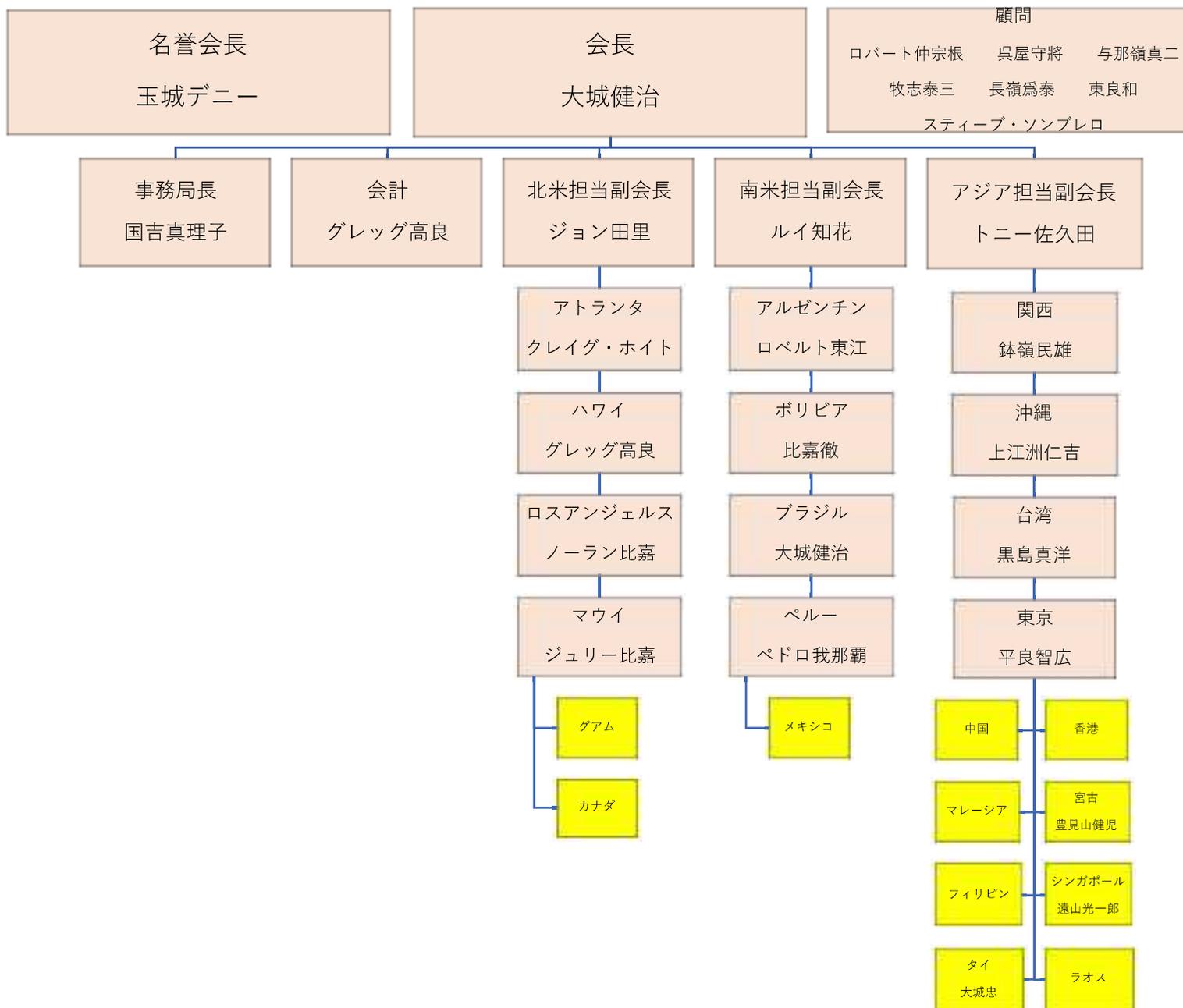
1. 平和経済の希求と実現
2. 国際レベルの経済交流
3. 国際ビジネスの促進
4. 国際ビジネスの情報交換
5. WUB他支部との連携・交流
6. 会員の研鑽、国際交流および親睦
7. 次世代の育成

会員条件：

1. 国際的なビジネスの展開を行っている方、または希望している方
2. 国際的なビジネスネットワークに興味があり、本会の趣旨に賛同され、理事会の承認を得られた方であれば、職業・国籍・宗教・性別に関わらず入会可

WUB NETWORK概要

団体の名称	規 模			活動内容	備 考
	支部数 支部名	支部会長	WUB Network 役員構成		
<p>WUB Network (ワブネットワーク)</p> <p>設立： 1997年9月1日 (平成9年)</p> <p>所在地： 米国ハワイ州 ホノルル市</p>	<p>全23支部</p> <p>沖縄 東京 関西 台湾 ブラジル アルゼンチン ボリビア ペルー 北米 ハワイ マウイ アトランタ</p> <p>宮古 タイ シンガポール 香港 マレーシア フィリピン メキシコ</p> <p>ラオス (準備中) 中国 グアム (休会中) カナダ (休会中) ヨーロッパ (休会中)</p>	<p>上江洲仁吉 平良智広 鉢嶺民雄 黒島真洋 ルイ知花</p> <p>ロベルト東江 比嘉 徹 我那覇宗孝 ノーラン比嘉 グレッグ高良 ジュリー比嘉 クレイグ・ホイット</p> <p>豊見山健児 瀬底正武 遠山光一郎</p>	<p>創設者 ロバート仲宗根</p> <p>名誉会長 沖縄県知事 玉城デニー</p> <p>会長代行 ケンジ大城</p> <p>副会長 ジョン田里 ルイ知花 トニー佐久田</p> <p>顧問 呉屋守將 与那嶺真次 牧志泰三 長嶺爲泰 東 良和 スティーブ喜舎場 ソンプレロ</p> <p>会計 グレッグ高良</p> <p>事務局長 国吉真理子</p>	<p>(1) 世界大会、ウチナーンチュ会議、ミニカンファレンス計画、実施。</p> <p>(2) ハワイ大学内東西センターへ留学する県人子弟への学費援助。</p> <p>(3) ビジネス交流促進</p> <p>(4) 会員交流促進</p> <p>(5) ウチナーンチュ大会協力、参加</p> <p>(6) オンライン集会 # UCHINA1000 の開催</p> <p>(7) ISCO首里城復旧・復興クラウドファンディング支援団体としての支援・推進</p>	<p>1997年9月第1回会議にてWUB設立。WUB本部名称をWUBインターナショナルとする。 2008年 WUBネットワークへ名称変更。</p> <p>1997年第1回WUB会議WUB設立 (ホノルル) 1998年第2回WUBエグゼクティブ会議 (ブラジル) 1999年第3回WUB世界大会 (LA/ラスベガス) 2000年第4回WUB世界大会 (沖縄) 2001年第5回WUB世界大会 (東京) 2002年第6回WUB世界大会 (ボリビア) 2003年第7回WUB世界大会 (ホノルル) 2004年第8回WUB世界大会 (アルゼンチン) 2005年第9回WUB世界大会 (関西) 2006年第10回WUB世界大会 (ペルー) 2007年第11回WUB世界大会 (上海) 2008年第12回WUB世界大会 (ブラジル) 2009年第13回WUB世界大会 (中止) 2010年第14回WUBネットワーク会議 (ホノルル) 2011年第15回WUB世界大会 (沖縄) 2012年第16回WUBミニカンファレンス (香港) 2013年第17回WUBネットワーク会議 (東京) 2014年第18回WUB世界大会 (ペルー) 2015年第19回WUBネットワーク会議 (アトランタ) 2016年 第20回WUB世界大会 (沖縄) 2017年第21回WUB世界大会/設立二十周年記念祝賀会 (ハワイ) 2018年第22回WUB世界大会 (ブラジル) 2019年第23回WUB会議 (オーランド市)</p> <p>2020年7月現在</p>



歴代WUBネットワーク会長

	氏名	期間	所属支部	現在の役職
第1代	ロバート仲宗根	1997年9月3日-2001年10月29日	ハワイ	WUB創設者
第2代	呉屋 守將	2001年10月30日-2005年4月7日	沖縄	WUBネットワーク顧問
第3代	与那嶺真次	2005年4月8日-2008年8月24日	ブラジル	WUBネットワーク顧問
第4代	牧志 泰三	2008年8月25日-2011年12月31日	沖縄	WUBネットワーク顧問
第5代	長嶺 爲泰	2012年1月1日-2014年12月31日	東京	WUBネットワーク顧問
第6代	東 良和	2015年1月1日-2016年12月31日	沖縄	WUBネットワーク顧問
第7代	スティーブ喜舎場ソブレロ	2017年1月1日-2018年12月31日	ハワイ	WUBネットワーク顧問
第8代	大城建治	2019年1月1日-	ブラジル	WUBネットワーク会長

2020年7月20日現在



WORLDWIDE UCHINANCHU BUSINESS NETWORK

WUB ネットワーク これまでの取組み

ビジネス・ファシリテーション

WUB のグローバルネットワークを活かし、海外参入に興味のある会員にたいして、現地でのサポート、紹介、助言などを行います。

(WUB ハワイの事例)

- ・ 沖縄の泡盛とビールの米国への紹介。 5 2 の泡盛酒造所とオリオンビールが WUB ハワイの主催する「Taste of Okinawa」のイベントへサンプルを提供。現在では、オリオンビールは多くの店舗で販売され、また泡盛を取り扱う店舗も増えた。
- ・ WUB の取組みと紹介を通じて、米国の建築事務所が沖縄県内のゴルフ場建設の設計プロジェクトのコンペで選ばれ施工した。
- ・ 最近では、沖縄を拠点とするビジネスをサポートし、EMRO、トマス技術研究所、ポークたまごおにぎり本店株式会社、Kuba Awamori を支援している。

(WUB ブラジル、ペルー、東京の事例)

- ・ WUB 東京会員の IT 関連事業でブラジルの新クライアントの紹介を WUB ブラジル経由でアレンジ。またその延長で、WUB ブラジルから WUB ペルーへ紹介され、現在も安定した事業展開中。

教育関連

- ・ WUB は東西センター（ハワイ州ホノルル市）、ハワイ大学、琉球大学、名桜大学、沖縄科学技術大学院大学 (OIST)、サンパウロ大学（ブラジル サンパウロ市）と提携している。また WUB メンバーは、これらの教育機関の様々な理事会と支援団体に任命されている。
- ・ WUB は米国、日本、南米の教育機関の紹介および協力関係を結ぶ支援をしている。
- ・ WUB は世界中のウチナーンチュを東西センターのアジア太平洋リーダーシッププログラム (APLP) で学ぶ奨学金プログラムを設立した。奨学生は現在まで 10 名。
- ・ WUB は小渕奨学生のハワイでの生活、また現地沖縄コミュニティの紹介などの支援を行っている。
- ・ WUB はハワイ大学の沖縄研究センター設立の支援をした。このセンターは、海外において大学の学部で沖縄歴史研究を専念して学べる唯一の研究所である。

文化活動

- ・ ISCO の首里城復興・復旧クラウドファンディング支援団体。 <https://isc-okinawa.org/shurikikin-jp/>
- ・ 各地域において県人会の支援を行っている。

WUB NETWORK URL: <http://www.wubnw.org/hp/>

WUB 24 Chapters: ARGENTINA, ATLANTA, BOLIVIA, BRAZIL, CANADA, CHINA, EUROPE, GUAM, HAWAII, HONG KONG, KANSAI, LAO, LOS ANGELES, MALAYSIA, MAUI, MEXICO, MIYAKO, OKINAWA, PERU, PHILIPPINES, SINGAPORE, TAIWAN, THAILAND and TOKYO

要因

影響とみら
も観光ビザ
南アジアか
調と見込ま
斤は、訪日
方人を突破
り、今年は
達成を期待

ルーズ船17
2倍の28万

や液化天然
の輸入額が
字は25カ月

の自動車
属加工機械
前年同月比3
倍18886億
りに増加し
を示す数量へ
増で勢いは

WUBが平和経済宣言



大学間の垣根を越えた「環太平洋コンソーシアム」協定の覚書を締結した(左から)山里勝巳名譽大学長、大城肇琉球大学長、外間登子琉球大副学長。19日(日本時間20日)、リマ市

環太平洋の大学連携 で世界大会

【ペルー＝梅田正寛】ウチナーンチュの経済連携構築を目指すWUB(ワールドワイド・ウチナーンチュ・ビジネスアソシエーション)の第18回世界大会が19日(日本時間同日深夜)、南米ペルーのリマ市で開かれた。アフリカ大陸を除く全世界から約250人の会員が参加。創立以来初めての「沖繩『平和経済』宣言」が発表されたほか、琉球大などが主体となって環太平洋地域の大学間でネットワークを構築する「環太平洋大学コンソーシアム」協定の覚書が結ばれた。20日(同)は第3回世界のウチナーンチュ会議が開かれる。

宣言は、69年前の沖繩戦や米軍基地問題などを念頭に「国や地域における力のみによる解決手法は、これまで結ばれていた絆を分断し、格差や争いを生み出す要因となる」と指摘。その上で「優れたソフトパワーであるウチナーンチュネットワークを活用し、世界各国、各地域の『平和経済』の実現に向けて努力することを使命とする」との理念を掲げた。

一方、琉球大と名桜大、パシフィック大(ペルー)の3大学は、各大学の垣根を越えたネットワーク構築へ覚書を締結。環太平洋地域にある大学間で単位交換制度や交換留学、スタディーツアー、研究者の交流などを実施する考え。現在は3校だが、WUBや各国の県人会などのネットワークを活用し、今後各地域の大学を含め世界的なコンソーシアム(連合体)を構築する予定だ。

政府
与する
万円ま
に關し
末の期
検討に
2013
通学定

贈金資教育

20日、
グスの
後に定

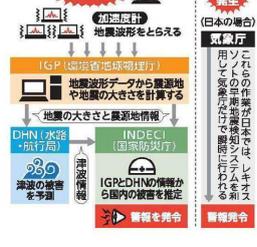
レキオソフトの早期地震検知システムの可能性について話すCISMIDのカルロス・サラソ長(左)とミゲル・エストラーダ前所長



ペルー国立工科大学の裏手に建ち並ぶ建築基準に沿わない家々

ペルー国立工科大学の裏手に建ち並ぶ建築基準に沿わない家々。地震発生時に、このように建物が倒壊する危険性がある。レキオソフトは、このような地域に早期地震検知システムを導入し、被害を軽減することを目的としている。

ペルーの地震津波防災機関関係



日本・ペルー 早期地震検知システム導入に関する調査を実施

レキオソフトは、ペルーの早期地震検知システム導入に関する調査を実施した。調査は、ペルーの地震防災に関する専門家と協力して行われた。

震度マップ基に対策構築

ペルーの地震発生時、ペルー行政機関や民間企業は、震度マップを基に、被害を軽減するための対策を構築している。レキオソフトは、この取り組みをサポートしている。



ビジネスを変える

早期地震検知システムの実用化は、ビジネスを変革する。特に、観光業や不動産業に大きな影響を与える。レキオソフトは、これらの業界をサポートしている。

JICAがペルーで民間連携事業

1899年にペルーへ日本人が移住してから昨年、120年を迎えた。世界約100カ所の拠点を展開する国際協力機構(JICA)によるペルーでの活動を紹介します。特集2回は、民間企業と協力して途上国の課題解決に取り組む「中小企業・SDGs」支援事業と「海外投融資」による支援を紹介する。(藤村謙吾)



ペルーへの早期地震検知システムの導入が可能な調査をするレキオソフトのカルロス・サラソ長(左)と、ペルー・リマ市のCISMID

ペルーへの早期地震検知システムの導入が可能な調査をするレキオソフトのカルロス・サラソ長(左)と、ペルー・リマ市のCISMIDのミゲル・エストラーダ前所長(右)が、早期地震検知システムの導入に関する調査を実施した。調査は、ペルーの地震防災に関する専門家と協力して行われた。

地震検知システム導入へ

ペルーへの早期地震検知システムの導入が可能な調査をするレキオソフトのカルロス・サラソ長(左)と、ペルー・リマ市のCISMIDのミゲル・エストラーダ前所長(右)が、早期地震検知システムの導入に関する調査を実施した。調査は、ペルーの地震防災に関する専門家と協力して行われた。

資本強化で成長手助け

ペルーの成長を手助けするために、JICAが資本強化を支援している。特に、中小企業への支援が中心となっている。レキオソフトは、この取り組みをサポートしている。



- 9 持続可能な開発目標(SDGs)
- 11 持続可能な都市とコミュニティ
- 17 パートナーシップを強化する



ペルーのCISMIDなどで案件化調査をしたレキオソフトのカルロス・サラソ長(左)と、JICA職員ら(右)が、早期地震検知システムの導入に関する調査を実施した。調査は、ペルーの地震防災に関する専門家と協力して行われた。

- 1 持続可能な開発目標(SDGs)
- 8 持続可能な成長を促進する
- 17 パートナーシップを強化する

「片手のごちそう」世界へ

県内外で4店舗展開する「ポークたまごおにぎり本店」(那覇市)が、今冬ハワイへ初出店する。片手で食べられる手軽さがヒットし、県民や観光客に人気だ。台湾や東南アジアへの進出も視野に入れる清川勝朗代表に、海外展開を決めたきっかけや、今後の事業展開などを聞いた。

(聞き手＝仲本大地)

ーハワイ進出のきっかけは。

「沖縄のソウルフードを世界に発信したいという信念をもっていった。利用客の中でも、台湾の観光客の利用が多かったため、当初は台湾への出店を考えていた。しかし、常連客から『ハワイの商業施設に空きがある』との情報を得て、二度とないチャンスだと思い、出

ポークたまごおにぎり本店 清川代表に聞く

店を決めた」

ーハワイのウチナーンチュの支援が支えとなった。

「県系経営者らでつくる、ワールドワイド・ウチナーンチュ・ビジネス・アソシエーション(WUB)のメンバーとの出会う感謝している。彼らのルーツである沖



「ポークたまごおにぎり本店」のハワイ進出について語る清川勝朗代表(2日、那覇市)

ハワイ進出 WUB後押し

縄の企業のハワイ出店を大歓迎してくれた」

「食材調達の当てがない中、WUBのメンバーから、米やポーク缶、のりなど現地の卸業者を紹介してくれた。ハワイで集めた食材でポークたまごおにぎりが完成した時の感動は忘れられない」

ー今後の展望は。

「商品開発の際には必ず、現地の『家庭の味』をメニューに加えることを心掛けており、ハワイ限定のメニューも5、6種類考えている。また、現地の食材を使い、油みそなど沖縄の味の再現も試みている」

「将来的に事業が軌道に乗れば、ハワイに新たな店舗も構えたい。また、当初計画していた台湾や東南アジアなどにも出店できればと考えている。コンセプトの『できたて、片手のごちそう』を今後も世界に発信し続けたい」



2014年8月19日

沖縄“平和経済”宣言

<背景>

沖縄はかつて琉球王国時代に、中国やアジア諸国との架け橋となる貿易「万国津梁」を謳い、平和的外交を重んじ、人や物の集まる国際都市として活躍する時代がありました。その精神は、今から遡ること一世紀余り、新天地を求め海外に雄飛し、それぞれの土地において確固たる地位を築いてきた我々ウチナーンチュの先人達へ脈々と受け継がれています。

しかし69年前、彼らの遠い故郷沖縄は、惨たんたる戦禍に見舞われ多くの県民が肉親を失い、悲しみと失望の底に突き落とされました。その時、救済に立ち上がった人たちこそ、ハワイ、南北アメリカ大陸など、海外で暮らす県系人同胞たちでした。彼らの故郷を思う郷土愛を私たちは決して忘れることはありません。同時に悲惨な戦争体験と平和の尊さを肌身で感じ、悲劇を再び繰り返すことのないよう、平和な国際社会の実現を希求していかねばなりません。

国や地域における力のみによる解決手法は、これまで結ばれていた絆を分断し、格差や争いを生み出す要因ともなりえます。私たちWUB（ワールドワイド・ウチナーンチュ・ビジネス・アソシエーション）は県系人による国際レベルの経済、情報および文化の交流をおもな事業とし、世界各国の支部とネットワークを結んでいます。世界的な経済交流やネットワークを結ぶには、平和な国際環境が不可欠であり、そのためにはグローバルな経済活動に置いても、ウチナーンチュのチムグクル、ユイマールの精神が極めて有用であると考えます。

沖縄から世界へ“平和経済”の発展を願う 宣言文

WUB（ワールドワイド・ウチナーンチュ・ビジネス・アソシエーション）は、

1. 世界各地のウチナーンチュのビジネスパーソンが連携し、国際的ネットワークの構築とビジネス活動を促進させ、それぞれの国や地域の経済発展を目的に活動を担う。
2. 沖縄に脈々と受け継がれている「いちやりばちょーでー（一度会えば皆兄弟）」の精神を再確認し、そして互いの文化、考え方を尊重し、差別や貧困のない多文化共生社会の実現を希求する。
3. すぐれたソフトパワーである世界のウチナーンチュネットワークを活用し、国際的な経済・文化・人的交流を更に発展させ、世界各国、各地域の“平和経済”の実現に向けて努力することを使命とする。